

ヤイトハタ養殖初期の給餌方法

【要約】ヤイトハタの養殖初期における給餌方法を検討するために給餌回数を変えて養殖試験を実施した。その結果、1日1回の給餌でも飽食量給餌すれば1日2回及び3回の給餌と生残率に大きな差がみられなかった。また、給餌回数による成長の差もみられなかった。

沖縄県水産試験場 八重山支場				連絡先	09808-8-2255		
部会名	水産	専門	養殖	対象	ヤイトハタ	分類	普及

【背景・ねらい】

ヤイトハタの養殖が県下各地で行われるようになったが、その養殖方法は十分確立されていない。特に養殖初期には共食いによる減耗が大きいいため、養殖初期の給餌方法の確立は重要な課題である。そこで、ヤイトハタの養殖初期の適正な給餌方法について給餌回数と生残成長について比較した。

【成果の内容・特徴】

- ①屋外250kl水槽に3m×3m×2mの生簀網を設置し、平均体重8.7g（平均全長77.5mm）のヤイトハタ人工種苗をそれぞれ900尾（100尾/m²）づつ収容し試験を実施した。試験区は1日1回給餌区、2回給餌区、3回給餌区とし、試験期間は77日間とした。なお、試験期間中の水温は図1に示した。
- ②給餌量は1日1回給餌区は飽食量とし、2回、3回給餌区は1日1回給餌区の給餌量を2回及び3回に分割して自動給餌機で給餌した。なお、飼料はマダイ用EP飼料を用いた。
- ③1日1回給餌区の日間給餌率は試験開始頃は5.4%で終了時は2.5%であった（表1）。
- ④生残率は95.9～98.2%と各区とも高い値を示した（図2）。また試験期間中斃死魚はほとんどみられなかったため、減耗の原因は共食いと考えられた。
- ⑤成長は1日2回給餌区で途中原因不明の摂餌低下が生じたためやや劣ったが、1回区と3回区はほぼ同様の成長を示した（図3）。
- ⑥各試験区の日間増重量率は2.04～2.09、増肉計数は1.2～1.4と大きな差はみられなかった（表2）。

【成果の活用面・留意点】

- ①1日1回給餌の場合給餌時間は15:00～17:00の間である。
- ②ヤイトハタは飽食するまでに時間がかかるので給餌には十分時間をかけて行う必要がある。
- ③種苗配布サイズの50mmから77.5mmの給餌回数は1日2回以上が良い。

[具体的データ]

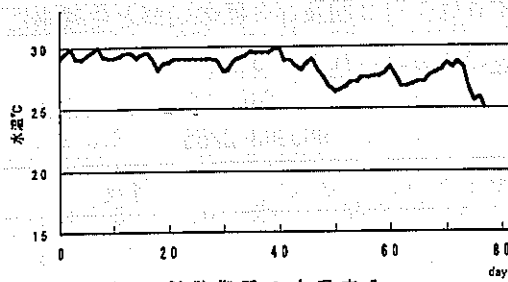


図1 試験期間の水温変化

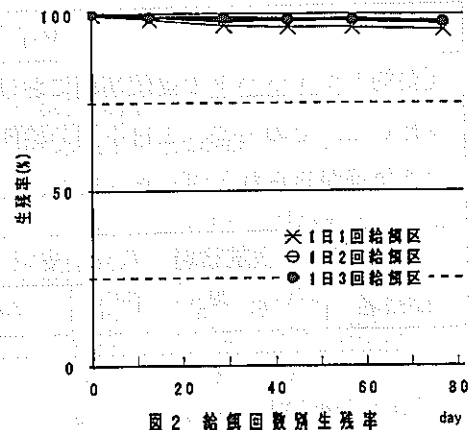


図2 給餌回数別生存率

表1 1日1回給餌区の日間給餌率と魚体重

	日間給餌率 (%)	期間終了時魚体重 (g)
99/08/04~99/08/17	5.4	14.0
99/08/17~99/09/02	4.2	24.0
99/09/02~99/09/16	4.0	41.4
99/09/16~99/09/30	3.4	56.4
99/09/30~99/10/20	2.5	80.9
試験期間通算	2.8	

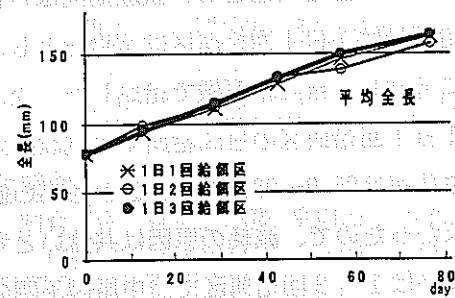
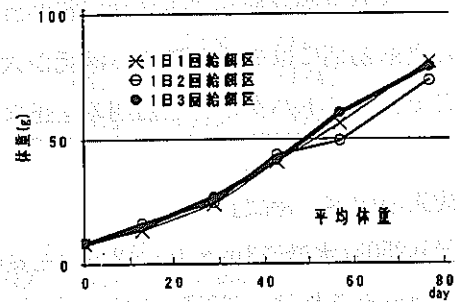


図3 給餌回数別平均体重、平均全長変化

表2 試験結果一覧

試験区	試験開始時(99/8/4)		試験終了時(99/10/20)		総給餌量(kg)	日間増重率(%)	増肉計数	生存率(%)
	平均全長(mm)	平均体重(g)	平均全長(mm)	平均体重(g)				
1日1回給餌区	77.5	8.7	163.2	80.9	29.25	2.09	1.3	95.9
1日2回給餌区	77.5	8.7	157.2	73.3	29.25	2.04	1.4	98.1
1日3回給餌区	77.5	8.7	164.3	79.2	29.25	2.08	1.2	98.2

[その他]

研究課題名：ハタ類種苗量産養殖技術開発試験

予算区分：県単独事業

研究期間：平成11年度(平成11年度)

研究担当者：大嶋洋行・仲盛淳・岩井憲司・仲本光男

発表論文等：平成11年度沖縄県水産試験場事業報告書(掲載予定)